



本社社屋外観

三和研磨工業 株式会社

切断・研削・研磨工具の製造販売

「切る」・「削る」・「磨く」で 高付加価値化に貢献

主な事業内容

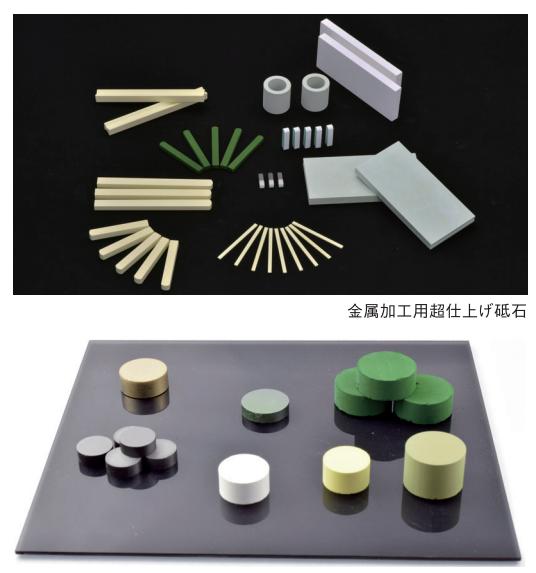
ダイヤモンド砥石及び研削砥石の製造販売

主な製品

石材加工用研磨工具、金属加工用研削砥石、蒸着機能材料



主力製品の石材加工用ダイヤモンド工具



金属加工用超仕上げ砥石



真空蒸着機能材料

企画力 試作 量産 多品種 小ロット 短納期 コスト相談

事業内容と沿革 研磨業界のフロントランナー

三和研磨工業は現在の社長である竹ノ内壯太郎氏の祖父である竹ノ内孫十郎氏が1949年10月に創業。孫十郎氏は若い頃よりもづくりに長けており、戦時下という時代背景のもと、ものづくりの現場で必要とされる人造研削材の開発に長らく従事してきた。同氏はのちに日本の人造研削材の祖ともいわれるほどになり研磨材業界の第一人者であった。同社の主力製品は石材加工用の研磨工具や機械、またペアリング加工用の超仕上げ砥石などだ。

石材加工用途の工具売上比率は国内外合わせて総売り上げの約60%を占める。輸出売上比率は約45%程度で、「近い将来、この海外比率を50%まで延ばしたい」と竹ノ内社長は語る。売り上げの殆どがB to B向け製品で占められるが、一部、オリンピックに出場するスケート選手の要望に応えるためにスケート靴のブレード部を研ぐための専用のダイヤモンド砥石の製造や、伝統工芸である漆製品を磨くための砥石、また造園職人が使用する剪定鋏の研ぎ砥石も開発している。

強み

ものづくりの現場で 欠かせない存在に

ものづくりにおいて、磨くという工程は古代より存在してきた。琥珀や勾玉などは磨くことにより光沢を出し、付加価値を高めてきた。現代では見た目の美しさのみならず新たな価値が表面加工から生み出されている。例えば、露光装置の薄膜加工などでは、ナノレベルでの均一な成膜技術が製品精度を引き上げ、電子機器の高性能化に一役買っている。

同社は磨く・削るに特化し、その技術を向上させるために文字通り切磋琢磨してきた。たとえば、ユーザーが新しい素材を加工する場合において、うまく加工できないなどの要望に対し、常に新しい砥石を開発し、その素材と加工方法に適した工具をオーダーメイドで製造する。

歴史の上にイノベーションを

私たち三和研磨工業は創業以来、磨く分野に必要な製品とサービスを供給することを使命として独自性の高い商品で世界の顧客に貢献することを目指してまいりました。さらに近年は「表面価値創造」という新たな企業ドメインのもと粉体焼結技術を生かした光学薄膜用蒸着材料をベースに新たな市場開拓を進めております。



代表取締役社長
竹ノ内 壮太郎さん

グローバルニッチトップを目指します

例として近年、空港の床やホテルの床などに用いられる建築資材、また流し台や洗面台の人造大理石など軽くて硬い新素材が注目される中、これら多くの素材にあった工具提供ができるのも今までの技術の積み重ねに他ならない。「現場の声、市場の声に真摯に耳を傾け、常に時代に適応する」が創業理念。常に末端のニーズは何かを意識しながら、直接顧客の声に耳を傾けている。

また、日本のペアリングメーカー製品は世界でもトップクラスの精度。その高精度な要求を満たすことができるのも同社の存在があってのこと。ペアリングの精度は軸受けの真円度が大きくかかわってくる。ペアリングメーカーはそれぞれ高い真円度を出すべく自社で製造装置を開発するが、各社それぞれ装置の仕様は異なっており、各社に合わせた形で砥石を提案する。最近ではコンピュータやスマートフォンで使用される極小ペアリングに対しても極小砥石を開発。ものづくりの現場において欠かせない存在となっている。製品開発・生産技術部門には16名の社員を専属させており、最新の技術動向に対しても常にアンテナを張っている。

今後の展開

グローバルニッチトップを目指す

竹ノ内社長は「大手が参入する分野では勝負しない。あくまでもニッチトップで存在感を出していく」と語り、輸出比率の向上など自社の方向性に迷いはない。現在、アメリカ・ドイツ・イタリア・インドに拠点を持ち、グローバルな展開を推し進めている。欧米諸国では小規模な工場などでも工業化・自動化が進んでおりマーケットとして魅力がある。ものづくりにこだわり、世界中の職人に認められるような製品づくりが究極の目標だ。

一方では社長自ら従業員への研修を行うなど、従業員の物心両面を豊かにすることを目指している。従業員の働きやすさを追求する企業として近年ではワーク・ライフ・バランス企業や健康づくり実践企業として京都府より認証されている。

今後は「表面価値創造」のキーワードの下、粉体焼結技術を生かした光学薄膜用蒸着材などの開発にも力を入れる。

住 所	〒611-0033 京都府宇治市大久保町上ノ山22-1
T E L	0774-41-6128
F A X	0774-46-7549
創 業	昭和24年10月
設 立	昭和24年10月
資本金	7,500万円
従業員	125名

<https://www.sanwakenma.co.jp/>

